

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	4	学校名	岐山高等学校
------	---	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人物を育成するため、次の教育目標を定めてその実践を期する。 (1) 「躍進岐山」の意気と誇りをもて (2) 全力を尽くして学業に励め (3) 礼儀正しく思いやりのある人となれ (4) 強健な心身をつくれ 上記、教育目標の達成を目指すとともに、理数科設置校としての本校に課せられた社会的使命や、生徒全員が進学を志していることに鑑み、その自己実現を図るよう、創造性に富んだ明るく活力ある学校づくりに努める。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚と責任をもち、リーダーとして地域や社会に貢献できる生徒 強い心身をもち、困難をも克服できる生徒 科学的な考え方と手法を身に付け、主体的・論理的に課題解決ができる生徒
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な活動を通して、物事を考察、判断、表現する力の育成 実践的な「知識・技能」が習得できるカリキュラムの編成と科学的視点と言語活動を重視した授業の実践 諸活動を通して自己理解をし、自己実現ができる支援
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 学業に主体的に取り組む意欲のある生徒 主体的に自己を見つめることができる生徒 校内外の活動に取り組む意欲のある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 全般的にまじめでおとなしい生徒が多い反面、主体性に欠け、学習に粘り強く取り組む姿勢に欠け、進路選択を自分事として深めることができない生徒が多い。 目の前のさまざまな課題に追われて将来について考える余裕がないため、幅広い知識を習得する意欲に乏しく、将来を見据えた進路選択が出来ていない。 大多数の生徒が、高い規範意識や多様性への理解、地域への感謝、他者への敬意等を有しているが、一部に乏しい生徒も見られて十分ではない。 探究的な学習活動には先進的に取り組んできたが、教科の学習活動との関連が希薄であり、教科の学習活動の中で実践できていない。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りを学習の中で常に行いメタ認知を意識させることで、学習の効果を高めてそれぞれの学力で自主的に学習できる授業を行う。 授業における探究的・発展的・教科横断的な取り組みを取り入れることで、学習に対する動機付けを行い意欲的に取り組む授業を行う。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 偏差値による目先の大学選択ではなく、自身の生き方・在り方を常に考えさせ、最善の選択ができるようにさまざまな支援を行う。 社会の変化や課題について常に意識させ、これからの時代を生き抜くために必要な力を考えて、身につけていくための支援を行う。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 「命の大切さ」「人とかかわり方」「多様性」「各種規則」等を常に考えさせて、他者と共生しながら、自己決定できる生徒を育成する。 あらゆる機会を通して生徒個々の理解を深めるとともに情報共有を行うことで、必要な支援を速やかに行い生徒の自己理解を深める。
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動やHR活動の活性化を図り、それぞれの段階に応じて、生徒の自主性や協働する力を育成する。 学習活動と同様に生徒が目標や練習内容を主体的にとらえた効果的な部活動を行い、学業との両立を図る。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	生徒が行う振り返り等の自己分析の手法を用いて、生徒の学習の到達度を意識させ、段階に応じた学習指導を行う。	8	施策Ⅱ-8 学習指導方法・定期考査結果・授業アンケート
	CMシートを用いたカリキュラムマネジメントにより、指導方法の評価や修正を常に可視化して行う。	26	施策Ⅳ-26 CMシートにおける目標達成状況・検討内容
	学習の動機づけを行うことで、課題・宿題に対して粘り強く取り組む姿勢を育成する。	8	施策Ⅱ-8 学習指導方法・定期考査結果・学習時間
	定期的または毎時間、探究的・発展的・教科横断的な取り組みを取り入れることで、学習の動機づけを行う。	8	施策Ⅱ-8 学習指導方法・授業アンケート
進路指導	進路講演会、リサーチゼミ、LHR等により進路の意識づけを行い、広い分野の研究・職業に興味をもてる環境を整える。	20	施策Ⅳ-20 進路志望調査や活動内容
	探究活動と連携し、進路選択を自分事ととらえ、段階的に進路について考えることができる機会を増やす	13	施策Ⅱ-13 探究の成果や進路志望調査
	授業や学校生活全般で、学習を通して身に着ける力の大切さを意識させ、進路意識を高めるための支援をする	8	施策Ⅱ-8 志望理由書や生徒面談
	探究を中心に将来を考える機会を増やし、実現に向けて積極的に取り組めるような様々な場面で啓発する。	13	施策Ⅱ-13 人間探究・理数探究の実施内容
生徒指導	人権教育に関する講話等を通じて、人権を正しく理解させ、すべての命の尊さを認識させる。	2	施策Ⅰ-2 生徒面談結果・講話振り返りシート
	LHRや学年集会などでの意見交流を通して、生徒の規範意識を内面から高め、基本的な生活習慣の質的向上を目指す。	1	施策Ⅰ-1 出欠席データ・生徒面談結果
	年齢や背景が異なる生徒や教員と意見を交わす機会を作り、他者を認め共存する力を育むとともに自己理解を深める。	1	施策Ⅰ-1 振り返りシート・いじめ件数
	様々な担当との橋渡しを考慮しながら直面している悩みや困難の解決のための援助	19	施策Ⅲ-19 カウンセリング・ホットブレイス等の利用実績
特別活動	生徒が自ら考え、学校の諸活動に積極的に参画できるよう、生徒会や委員会との連携を強化する	1	施策Ⅰ-1 生徒会活動の実績
	各行事が円滑に実施できるよう、先を見通して、計画的な準備と運営を行う。	1	施策Ⅰ-1 特別活動部の年間計画及び年間反省
	集団での活動を通して、仲間意識を高め、集団に貢献しようとする態度を育てる。	16	施策Ⅲ-16 生徒アンケート・生徒面談結果
	適切に休養日を設けるとともに、定められた時間内で最大限の効果が上がるよう内容を検討する。	16	施策Ⅲ-16 練習計画・活動実績・生徒面談結果

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<p>動機付けとして、定期考査・課題実力テスト毎の成績推移や順位を全生徒に提示・確認させることで学習習慣の確立の意識を養わせた。</p> <p>授業アンケートを年2回実施し、授業実践の客観的評価と見直しを全職員が行った。</p> <p>CMシートの活用を国語、数学、英語から始めた。3年間の予定と照らし合わせて、各々の時期に身に着させたい力から目標を設定し、得られた結果を検証し、手立ての妥当性や今後の方針について見直しをした。</p>	B	<p>○成績推移の提示を始めたことにより、客観的な評価を気にする生徒が多くなり、学習に向き合うようになったと考えられる。</p> <p>▲授業アンケートからは、満足していることが受け取れるが、より教科毎や生徒の実態に合わせた自由度のある質問項目を設けられるような工夫も検討したい。</p> <p>▲CMシートの導入を図った。次年度から5教科に広げ、その後全教科で実施することの準備・検討をする。</p>	
<p>進学指導重点校事業を利用し、1年生の探究活動のカリキュラムと指導方法の改善を試み、因果ループ図を用い、解決策を洗い出す手法を繰り返したことで身に付けることができた。</p> <p>また、2・3年生に対してのリサーチゼミや進路講演会を行ったが、実施回数が少なかったため、進路から担任への情報提供を増やした。</p> <p>学習時間調査を継続して行うことができ、昨年度より学習に対する姿勢を意識させることができた。</p>	B	<p>○探究活動、理数探究基礎を通して進路について考える機会を設けることができた。</p> <p>▲自身の進路選択に困っている生徒も見られる。具体的な目標を持つ指導・支援をしていくためにも、探究活動と進路の関わりを、生徒がイメージしやすいよう改善する必要がある。</p> <p>▲リサーチゼミや進路講演会の実施回数を増やし、生徒保護者共に進学に向かう姿勢を整え、進路意識の啓発に努めたい。</p>	B
<p>ひびきあいの日では、生徒会が中心となり、災害発生時における人権問題の意見交流を、全生徒で実施した。全校生徒をランダムにグループ分けして討論することで、それぞれに人権意識を高める働きかけができた。</p> <p>羅進岐山みんなの会を実施し、生徒と教員、保護者との意見交流を図り、立場の異なる人の間で議論を交わすことができた。</p> <p>面談やアンケート、日頃の様子から、生徒の悩みなどの把握に努め、教育相談を積極的に行った。</p>	B	<p>○全校生徒でのグループ討議では、人権を考えるきっかけになり、コミュニケーションの大切さを知ることにも繋がった。また、様々な人との交流から、自身の意見を大切に持ちながらも、他の意見を尊重する資質の向上を図ることができた。</p> <p>○副担任や教科担任などを含め、教員間の情報共有が大変密だったため、きめ細やかな対応につながった。</p>	
<p>生徒会主催行事はもちろん、他分掌から協力依頼のあった企画においても、生徒会が主体的にその準備・運営を行い、教員からの助言を受けながら、その責務を果たした。</p> <p>準備においては、日程を確認しながら、各会議での提案内容を整理し、計画的に準備・運営を進めることができた。</p> <p>教員・生徒それぞれから得た反省をもとに取り組みを進めることができた。</p>	A	<p>○羅進岐山みんなの会やひびきあいの日の行事など、生徒支援部主管の行事に対しても生徒会が主体的に関わったことにより、活動の幅が広がり、活性化につながった。</p> <p>▲企画の詳細内容については、決定に時間がかかったり、情報不足があったりして、結果として教員への周知が徹底されないといったことあり、改善が必要である。</p>	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月31日

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導については、学校全体で取り組んでいく必要がある。教科指導については主たる教科についてはカリキュラムマネジメントシートを作成し、各教員で考え方を共有できるようにし、常に出口を見据えた指導へ向かえるように、進めていきたい。 ・進路指導については、探究部と連携し、今年度のカリキュラムを基本にし、進路実現の要素を組み込んだ内容に改善していく。また、学年と相談をしながら、LHR等を利用して進路学習を実施し、進路意識を高めていく。模試の結果やこれらの進路学習を踏まえて、学習に取り組む意欲的な態度を育てたい。 ・生徒指導については、生徒がより真剣に自分事としてとらえられるように、積極的に外部講師を招聘したり、生徒会の協力を得て、学年やクラスの枠を超えた生徒同士の交流を積極的に図り、他者の意見を聞き入れる練習をしながら、人権の大切さ認識させるとともにコミュニケーション能力を育む取り組みをしたい。 ・特別活動については、学校行事をはじめとする様々な取り組みにおいて、生徒会だけでなく生徒全員がより主体的に関われるよう、各種委員会との連携を強化し、それぞれの委員会活動が一層充実するように働きかけることや、全校生徒のボランティア活動に対する意識をより高められるような取り組みを検討する。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月10日

<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの実施など生徒に還元できる内容で実施し、満足度も高いことやCMシートの活用で、5教科へ実践を広げることがよい。学習習慣を身につけさせ、学力の伸長につなげてもらいたい。 ・探究活動では、よい発表をしていた。理数科のノウハウが普通科にも生かされていると感じる。ただ、発表環境をもっと整備できると、より良いものになるのではないかな。 ・今後の進路実績も楽しみである。 ・羅進岐山みんなの会のように、生徒の企画で運営されることは大変良い。特に、教員だけでなく保護者も交えて様々な年代の話が聞けることは生徒にとってもよいと思う。今後も続けてもらいたい。 ・自身の周辺では長良高校の方が人気である。長良高校の人気はなんらかの理由があると思う。OBの立場からは新聞などでの情報発信は楽しみ。大垣北や岐阜高の野球部関連の報道に影響があったように、岐山からも情報発信が多いと嬉しい。「岐山」の名前が出る活動をしてほしいし、人気となってほしい。
--